

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071400693		
法人名	医療法人おがた整形外科医院		
事業所名	高齢者在宅複合施設サザン		
所在地	福岡県福岡市早良区次郎丸1丁目29番40号		
自己評価作成日	平成28年12月14日	評価結果確定日	平成29年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成28年12月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

開設母体である医療法人が地域に根ざして38年、当施設が開設15年を経過し、この地域に根差し、この地域になくはない存在になっています。「笑顔の為に何でもする」という理事長の思いを共有するスタッフが、献身的に利用者と触れ合っています。地域の健康教室開催、地域住民が参加できる納涼祭の開催、町内夏祭りへの出店参加、灯明祭りなど、自治体校区の行事への入居者、スタッフの参加等、地域住民として地域を盛り上げている。5ユニット(45人)あることで、閉鎖的な環境にならず、常に前を見据えたケアをユニット毎が相互に、競い、高め合い、助け合いながら運営している。状態のかけ離れた利用者をつつのユニットで一元的にケアするのではなく、時間の経過と共に変化する、認知症の進行度合い、身体状況の変化に合わせて、ユニット間の移動を可能としている為、利用者の残存能力、機能回復、生きがい向上が適切に行われるようなケアを行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「高齢者在宅複合施設サザン」は全国的にも珍しい5ユニット型のグループホームで、1Fでは、こちらも九州で随一の規模の大型デイサービスと併設されている。系列で近郊にも介護施設を運営しており、一体的な体制で入居者の転床などもされることで、生活環境を大きく変えることなくサービスが提供されている。入居者が受け身にならず自発的な活動が出来るように、回想法にも取り組んでおり、最近では、元々ハンバーガーショップを営んでいた方の、1日開店を実現させ、家族にも大変喜ばれた。入居者がスムーズに馴染めるような働きかけを日々考えて、ユニット同士がサービスの質を競ってケアに取り組んでおり、ユニットごとに独創性のある行事企画をしている。食事にも力を入れており、栄養士、シェフによる調理指導の下、バラエティに富んだメニューは好評である。スタッフが幸せに働き、入居者を幸せにするという考えがあり、長く勤める職員も多く、今後も地域の中心となった活躍が大いに期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれのユニットの玄関に事業所の理念を掲示し、毎日確認することで実践につなげている。	サザンの理念に基づいて、ユニットの目標を定めており、今年からはさらに目標の掲示や明示によって意識的に取り組むように働きかけている。理念を実現するためのスローガンとして「笑顔のためなら何でもする」を職員の共通意識をもって日々のケアやサービスの提案を自発的に行っている。玄関や事業所内への掲示もされている。人事考課や面談でも理念の理解を進めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、地域とのつながりを持つようにしている。地域の夏祭りでは、職員が準備や演奏、出店を行い、祭りを盛り上げた。灯明祭りでは、地域の方と協力し、作品を作りあげ、利用者も見学にお連れし、大変、喜ばれていた。地域の献血では、事業所をあげて参加している。	地域とのかかわりは深く、自治会からも頼りにされている。事業所の夏祭りも大々的に行いボランティア協力や、一般の方の参加もあり、3000人を超える来訪がある。今では地域の恒例行事ともなり意見を募って年々運営改善もしている。地域の夏祭りにも出店して運営からかかわっている。日常的にもサザンの職員に親しみをもって声掛けや挨拶も交わされ、地域の関係者の入居者も多いため、家族的なつながりがもてている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校や高校の職場体験を受け入れ、レク等を通して、支援の方法を学んでもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日頃の利用者の生活や夏祭り等の報告を行っている。自治会長の提案により、サザンの前の歩道の花壇作りを利用者と共に行い、地域の方に喜ばれている。	運営推進会議の中での意見や要望がきっかけで、今年からの街路樹の整備「フラワークラブ」の発足となった。第三週水曜の夕方で固定し、家族には口頭で案内しており、毎回3名前後が参加している。参加者の意見も積極的で、地域行事の運営にも役立っている。議事録は受付にファイリングで設置してあり自由に閲覧できる。	今後家族の参加も増やしていくために、全体へのご案内を文書で送ったり、議事録の報告を行ったりされることも検討されてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの職員が出席し、日常の取り組み等を報告しながら、協力関係を築いている。	去年は早良区の職員が運営推進会議に参加された。介護予防の支援に交流室を開放しており、地域包括支援センターと連携して取り組んでいる。隣の集会所で開かれる研修などでの関わりもあり地域包括支援センターとの交流は深い。夏祭りなど行事の際に招待し参加されることもある。法人として役所から要請を受けて、相談や講演などもされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の研修や外部研修に参加し、理解している。ユニットの玄関も施錠せず、自由に入出りできる。	玄関は常時開放しており、受付によって見守りをされ、施設内の移動も自由である。徘徊癖のある方には見守りや付き添いで落ち着くまで対応している。全国の事件などの事例を扱って研修も行い、マニュアルをもとにして理解を進めている。外部研修に参加した際は内部での伝達も行っている。センサーも使わず転倒リスクの高い方も見守りで対応している。	

H28自己・外部評価表 (GHサザン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内の研修や福岡県グループホーム協会の研修に参加し、理解を深めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修やマニュアルで理解しており、実際に成年後見制度を利用されている方もいる。	成年後見制度を利用されている方が3名ほどおり、入居後に制度利用になった方もいる。外部の後見人を使われる方もおり、必要があれば事業所からも紹介をしている。契約時に制度の説明を行い、入居後想定されるリスクに関しても理解してもらっている。職員も利用者とのやり取りを通して理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	生活相談員が契約時に丁寧に説明を行っている。介護保険の改訂時等では、計画作成担当者もその都度、丁寧に説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会時に管理者や職員に気軽に声をかけられ、必要なことはすぐに対応している。	面会に来る家族も多く、外部評価時のアンケートも半数以上の回答を頂き、食事やサービスなどに好意的な意見も多かった。ヒアリングによる満足度調査も年1回行い、閲覧開示をしている。請求を窓口払いにすることで、必ず月1回以上は全家族に訪問してもらうようにしている。行事写真は毎回配布し、季刊誌の「サザンだより」は年4回発行する。	ヒアリングやアンケートによる満足度は高いが、日頃あがってこない隠れた意見を引き出す取り組みとして、匿名のアンケートや意見箱、家族会など様々な方法を検討されることにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の個人面談があり、職員の意見を聞き、運営に活かしている。	グループホーム全体の管理者や事務長との個別面談があり、目標の達成状況や相談事など幅広く相談が出来る。ユニットごとのミーティングが毎月あり、当日の出勤者が参加し、全体の情報はリーダー会議で共有している。毎月ユニットごとの予算の割り振りがあり、裁量をもって自由にレクや外食などの企画に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績や努力に応じて、給与に反映されている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層や福祉業界以外の職員の採用も多く、それぞれの得意分野を生かして介護を行っている。	男性職員の割合も高く、半数に近い割合である。正社員雇用を基本に、年齢の幅も広い。ユニット同士で協力もするがサービスを競いながら入居者に楽しんでもらえるケアを目指しており、職員の定着率も高く、長期的な目線で、入居者の信頼を得てきめ細かなサービス提案を行っている。職員同士もコミュニケーションを取りながら風通しの良い職場環境を作っている。研修参加も希望すれば参加することが出来る。人事考課制度も制度として確立し運用されている。	

H28自己・外部評価表 (GHサザン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職場内の研修やグループホーム協議会の研修に参加している。	外部研修に参加した際は内部での伝達研修を行い、それ以外にも年間計画の中で研修を開く。事務長が人権啓発推進員にもなっており、研修参加時は伝達もしている。障がい者雇用として盲者の方の受け入れも進めており、職員も仲間として受け入れている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や実績に応じて、グループホーム協議会の研修や認知症介護実務者研修に参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加し、他の施設の職員と情報交換を行っており、意欲の向上につながっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の相談では、まずは信頼関係を築けるように、本人の不安や希望をしっかりと聞くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の相談では、家族の困っていることに耳を傾け、信頼関係を築くことが出来るようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとの連携のもと、必要なサービスを利用できるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛り付けや洗った食器を布巾で拭いてもらったりして、役割を持って生活を送られている。手伝ってもらった後には、感謝の言葉を伝えることで良い関係が築けるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎週、家族と一緒に外出されている利用者も居られ、サザンに戻られた時に外出時の様子を聞く事で、本人のケアに活かしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が以前、開業していた店に本人やユニットの利用者をお連れし、本人と昔の思い出にひたってもらった。デイサービスを利用されている夫が入居している妻に自由に会いに来て、会話を楽しませている。	併設のデイからの利用継続の方も多く、利用者同士の馴染みの関係を築いている方もいる。近郊の方の入居も多く、以前からの美容室や買い物なども家族や事業所の支援によって通っている。女性は外出時に化粧もして、化粧品も馴染みのお店から購入を継続している。入居者同士の関係も良く、スムーズに入居に移れるよう家族のようなアットホームな雰囲気を作っている。家族も協力的で一時帰宅や外泊する方も多い。	

H28自己・外部評価表 (GHサザン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格を考え、上手く交流出来るようにリビングでの席を配置したりしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の希望により、退所された後に併設のデイサービスを利用されている方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを使用し、本人の希望の聞き取りを行っている。困難な場合は家族への聞き取りや生活歴をもとに検討している。	主に各ユニットの計画作成担当者とケアマネが担当して、独自のアセスメントを行っている。半年～1年程度で基本情報とADL評価の見直しもしている。系列事業所からの転居利用も多く、情報も共有している。意思疎通の難しい方にも回想法を利用して、家族からの情報も活かしながら、意欲の刺激になるようなケアを心がけ、以前の飲食店の1日開店にもつながった。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを使って、本人や家族から聞き取りを行っている。日頃の会話の中からも、情報を得るようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の観察や一日の過ごし方について、朝夕の申し送りで現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて、本人、家族、管理者、計画作成担当者などが話し合い、現状に合った計画を作成している。必要があれば、計画の見直しを行っている。	基本的にはユニットごとの計画作成担当者がケアマネとともにプラン作成している。カードックスによりプランを参照しながら実施記録を入力することで、プラン内容を共有する。プランは3ヶ月ごとに見直し、その際に担当者会議を開催している。	長年勤めている職員も多いため、プランや日々のケアに関して理解されたいうえでの対応が浸透しているが、ケアプランの内容や担当者会議の改善経過が見れるような記録に関しての検討に期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践や気づきを介護記録に記入し、毎日の申し送りやユニットでのカンファレンスや担当者会議で話し合うことで、計画の見直しに役立てている。		

H28自己・外部評価表 (GHサザン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況にも応じて急な受診にも対応している。本人の希望があれば、買い物付き添いを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	藤の花の季節には、利用者を賀茂神社までお連れし、職員の介助のもと、花を見て楽しまれている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望で入居前からのかかりつけ医を主治医とし、診察や薬の処方を受けることが出来る。適切な診察を受けることが出来るように、体調について受診前に家族に詳しく伝え、受診後に内容についてしっかりと聞き取りを行っている。	基本的には以前からのかかりつけ医を優先して継続してもらい、母体の医療法人に固定されることもなく、様々の医療機関と連携している。通院を原則として、家族や事業所で協力しながら対応し、同行することもある。急性期には往診対応してもらったこともある。看護職の職員もおり日々の健康管理もされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に相談したり、受診時に看護師に情報を提供することで、適切な診察が受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が本人に付き添い、日頃の状態を伝えたり、介護添書を病院に送ることで、情報提供を行っている。入院中に計画作成担当者が面会に行き、看護師や家族と情報交換を行うことで、早期の退院につなげている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族にターミナルケアの説明を行い、重度化した時は、主治医の説明のもと、病院の医療関係者と共に本人にとって適切な生活が出来るように支援を行っている。	母体が医療法人であることもあり、医療対応することも多いが、希望があればターミナルケアを行い、今までに二名ほどの看取り支援も行った。かかりつけで看取り対応できない場合は24時間対応の出来る医師の紹介もしている。系列事業所での対応も共有し、事例検討も随時行っている。家族の協力も得ながら、泊まってもらったこともあった。看取りプランも立てて対応体制を作っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の研修の実施やマニュアルを準備している。日常的に看護師より、急変時等の対応について、説明を受けている。		

H28自己・外部評価表 (GHサザン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練を年2回行い、運営推進会議で地域との協力について話し合いを行っている。	年2回の訓練は昼夜想定で行い、消防署や設備会社に立ち会ってもらっている。地域の防災訓練もあり、職員が参加している。地域との相互協力体制も相談しており、避難場所の提供や、事業所の避難経路や連絡網の受け渡しもしている。不定期で地域との合同訓練も行っている。水や食事など備蓄物も300名分を3日分確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声掛けを行っている。トイレ等の声掛けは、プライバシーを考えて、さりげなく行っている。	年間計画の中で毎年、プライバシー保護や接遇に関する研修も行っている。親しみやすさの中にもマナーを心得て、お茶の出し方に関する指導をした上で細かな対応にこだわっている。写真などの利用に関する契約時に同意書を交わしている。男性職員も多いが、家族との同意の上で、同性介助を希望される方への対応も行う。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自由に表現できるように声掛けを行ったり、職員が決めつけずに、利用者を選択してもらっている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、本人の希望によっては、戸外に散歩にお連れしたりしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の化粧の準備や手伝いを行ってもらったり、外出時には、季節や内容に合わせた服装が出来るように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に食材の盛り付けや、洗った食器を布巾で拭いてもらったりしている。	管理栄養士が監修し、調理指導も行っており、現場の職員が毎日調理している。食事には特に力を入れており、品数も豊富で手の込んだ食事を提供し、入居者家族の評判も良い。職員への調理研修も行い、レベルも高い。調理レクとして入居者と一緒に調理したり、外食の機会も多い。年1回嗜好調査もしており、刺身やおせちなどの季節物も充実している。調査当日は餅つきを一緒に楽しみ、安全に配慮して提供もされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに応じて、刻んだり、とろみをつけたりしている。必要に応じて、食事の介助を行っているが、出来る限り、自分で食べてもらえるようにしている。		

H28自己・外部評価表 (GHサザン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの声掛けを行い、自分で出来ない方は職員が介助を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にそれぞれ記入し、それをもとにトイレ誘導を行い、少しでもパット類を減らし、トイレで排泄が出来るようにカンファレンスで話し合っている。	ユニットごとに全員を管理する排泄チェック表によってそれぞれの排泄状況を確認している。自立した方にはあとから聞き取り、自尊心に配慮しながら働きかけている。トイレが4か所あることで、どの居室からもすぐに利用できる。入居当初はおむつ利用だった方も汚染状況や排泄状況の改善によりパット利用に変更したりと、随時の状況から提案を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をいつもより多く飲んでもらったり、ユニット内の廊下を使って、歩行運動を行ったりしている。改善されない方は受診して相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じて、毎日入浴されている方もいる。入浴を楽しめるように入浴剤などを工夫している。	ユニットは共通の家庭用ユニットバスで、夕方や日曜には1階の大浴場を使うこともできる。基本的に毎日入浴可能で、拒まれる際でも週3回以上は入浴してもらっている。1階には機械浴もあり、必要があれば使用もできる。皮膚観察の場としても役立てスキンケアも心がけている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望で居室で臥床して休憩したい方には、日常生活の支障にならない程度に行ってもらっている。日中はレクや運動で活動的に過ごしてもらい、夜間の安眠につなげている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけの病院から薬の説明を受け、本人の能力に合わせて、服薬の支援を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付け、洗濯ものたたみ等、家事を職員と一緒にすることで役割を持って生活を送ることが出来るようにしている。		



H28自己・外部評価表(GHサザン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望で戸外へ散歩にお連れしたりしている。本人の希望で以前、経営していた店に家族と協力してお連れした。	季節行事を含めユニットごとの外出行事があり、それぞれが独自の企画を催している。意欲低下された方も全体行事の際には働きかけて参加してもらう。デイが休みの際には1階の施設を使ったり、車の数も多いため、少人数での外出機会も多い。地下鉄に乗って外出する方もおり、随時機会を見て外出されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の協力により、小額のお金を所持されている方もおり、買い物に行かれた時に使用されている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に家族に電話や手紙のやり取りを行うことができる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が心地よく過ごすことができるように、温度などを調節し、季節の花や置物を飾ることで季節感を感じてもらえるようにしている。	3フロアに分かれて、各フロアに2ユニットが配置されている。ユニットごとに独自性をもった飾りつけなどを楽しんでいる。音楽も雰囲気を損なわないような静かなものを流したり、調度品も高級感のある落ち着いた感じである。生け花活動で作った作品を飾ることもある。カウンターキッチンのすぐそばにダイニングテーブルがあり、アットホームな雰囲気が間近に感じられる。1Fのデイに和室スペースがあり、カラオケを楽しむ事も出来る。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの利用者同士でソファーに座ってテレビを見たり、会話を楽しまれている。本人の希望で居室で過ごされる方もいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みのある家具や置物を持参し、居心地良く過ごされるようにしている。	居室は8畳と広く、ランプシェード、クローゼット、木製ベッドとテーブル、椅子が設置されている。介護ベッドも必要がある方には準備もできる。シックな色合いの洋間で落ち着いた雰囲気である。持ち込みも自由で、テレビや冷蔵庫、仏壇などを入れられる方もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており、本人の能力に合わせて、職員が随時、介助を行っている。出来るだけ本人に出来ることは行ってもらっている。		